

C-18 救急科選択プログラム

概要

(1) 救急科選択プログラムは、救急部門(必修)研修を終了した後に、選択科目として救急科を選択する場合の研修プログラムである。

(2) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：岡田 稔

目標

一般目標(救急科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、救急科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

行動目標(救急科選択研修 SBOs)

- 個人が決めるSBOs
- 診療科が薦めるSBOs
- EPOCで定める目標

EPOCで定める目標

1. 救急科で必ず修得しなければならないEPOC項目(マトリックス表で)

- | | |
|---------------|-----------------|
| A-1 医療面接 | A-4-3 心マッサージ |
| A-2-1 全身観察 | A-4-4 圧迫止血法 |
| A-2-2 頭頸部の診察 | A-4-17 軽度の外傷・熱傷 |
| A-3-6 動脈血ガス分析 | A-4-19 除細動 |
| A-4-2 人工呼吸 | |

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-2-1 心肺停止
- B-2-2 ショック
- B-2-13 外傷
- B-2-14 急性中毒

B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-16 物理・化学的因子
 - (1) 中毒
 - (2) アナフィラキシー
 - (3) 環境因子による疾患

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)

- (1)バイタルサインの把握ができる
- (2)重症度、緊急度の把握ができる
- (3)ショックの診断・治療ができる
- (5)高頻度救急疾患の初期治療ができる
- (7)大災害時の役割を把握できる

2. 救急科で修得するのが望ましい EPOC 項目 (マトリックス表で)

A-1 医療面接	A-4-7 採血法
A-2-3 胸部の診察(乳房の診察を含む)	A-4-8 穿刺法((腰椎)
A-2-4 腹部の診察(直腸診含む)	A-4-9 穿刺法(胸腔、腹腔)
A-3-1 尿検査	A-4-10 導尿法
A-3-3 血算・白血球分画	A-4-12 胃管の挿入管理
A-3-4 血液型判定・交差適合試験	A-5-2 薬物療法
A-3-5 心電図(12誘導) 負荷心電図	A-5-3 輸液
A-3-7 血液生化学検査	A-5-4 輸血
A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査	A-6-1 診療録作成
A-3-14 超音波検査	A-6-2 処方箋、指示箋
A-3-15 単純 X 線	A-6-3 診断書、死亡診断書
A-3-17 X 線 CT	A-7-2 診療ガイドライン
A-4-1 気道確保	A-7-3 入退院適応判断
A-4-6 注射法	A-7-4 QOL 考慮

3. 全ての科で目標とする項目 (マトリックス表では)

I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1)患者-意思関係、(2)チーム医療、(3)問題対応能力、
- (4)安全管理、(5)症例呈示、(6)医療の社会性

方略(LS)・評価(EV)

A-22 救急部門(必修) - 救急科プログラムを参照